豊田版

花ひらく
近藤　義行
形象派美術協会所属

ニュース、情報は下記へ
社会部
052-231-1650・5919
Eメール
shakai@chunichi.co.jp

豊田支局　〒471-0849
豊田市美山町3―34―34
0565-24-1010　Fax25-1118
岡崎支局　〒444-0863
岡崎市東明大寺町16―18
0564-22-1661　Fax25-1554
刈谷通信局
0566-21-0077　Fax26-0285
安城通信局
0566-76-3355　Fax76-0900
西尾通信局
0563-56-3135　Fax56-3136
碧南通信局
0566-41-0468　Fax43-1047
豊橋総局
0532-52-7181　Fax54-4655

中日新聞へのご意見は
読者センターへ
052-221-0800　Fax221-0819
Eメール
center@chunichi.co.jp

広告のお申し込みは
広告局三河アドセンターへ
岡崎　0564-23-3051(代)

掲載写真を購入希望の方は
最寄りの中日新聞販売店へ

わたしが編集長 ▶14◀

帯田　祥尚

おびた・よしひさ
32歳。長崎県佐世保市出身。子どもの頃の憧れは人体改造を施されたヒーロー・仮面ライダー。グライダー飛行、はしごでビルの屋上へ…と体当たりの仕事が増えたと感じる記者6年目。岡崎支局。

地上七階、地下一階。れんが色のタイルに覆われた自然科学研究機構・生理学研究所（生理研）は岡崎市の名鉄東岡崎駅の南、閑静な住宅街の坂を上った先にそびえる。分子科学研究所と基礎生物学研究所を併設するキャンパスを訪ねたのは他でもない。妙なうわさを耳にしたからだ。「研究所では人体実験を行っている」。真相を生理研広報の坂本貴和子助教(四〇)に直撃した。

■実験室へ

「私もタクシーに乗っていて尋ねられたことがあります」。茶色のウエーブがかかった短髪の坂本助教はうなずいた。「何か変な実験をやってるんじゃないかとか、夜な夜な首のないネズミが出るとか…」。だが、その後できっぱりと言った。「全然そんなことありませんから！」

ここはひとつ、実際にこの目で確かめてみなければなるまい。

坂本助教の案内で研究所へ。地下一階では、早稲田大の永島計教授(五五)と奈良女子大の中田大貴准教授(三七)が人の温度感覚を調べる実験をしていた。

㊤生理研広報の坂本助教。歯科医師から脳の研究者に転じた　㊦研究棟

科学の発展　記者も一役

実験には磁気共鳴画像装置（MRI）を用いる。生理研の原田宗子特任助教(三九)から健康面へのリスクなどの説明を受け、実験用のスエットに着替えて準備完了。MRIの寝台の上にあおむけに固定され、実験が始まった。

■熱い？　冷たい？

実験は左の手のひらに二二～四〇度に変化する電熱板を当て、どれくらいの温かさかを右手のボタンで評価する。その間の脳画像をMRIで撮影し、脳のどの部分が活動しているかを調べる。

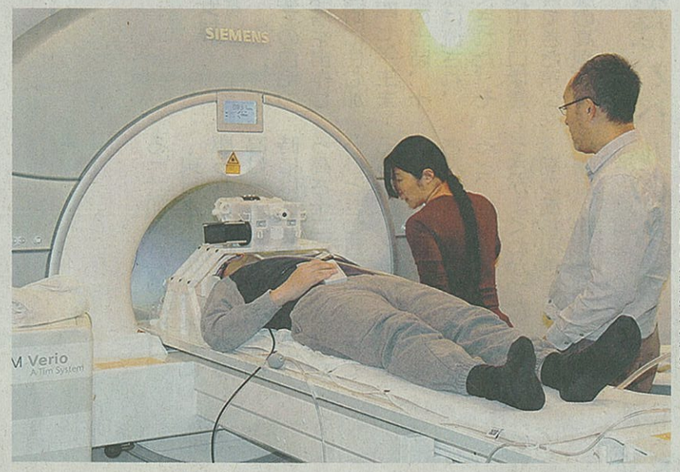
中田准教授は「皮膚の温度は三二度くらいですから、熱い冷たいはあるかもしれませんが、痛みを感じたらすぐに教えてください」と気遣ってくれた。休憩を挟んで約二時間の実験は淡々と進み、横になったまま途中で何度か眠りそうになったくらいだった。

■将来は熱中症予防に

必要な実験データは十五人分。永島教授は研究の将来像の一つに「高齢者の熱中症予防」を挙げる。

実は、人が温度をどう感じるかについて科学的には何も分かっていないという。夏場に頻発する高齢者の熱中症事故で「エアコンを使わなかった」と話すのには、加齢により脳の温度認識に変化が生じ、環境温度を暑いと感じなかった可能性があるのだ。

今回の実験結果が論文になるには一年ほどかかるという。被験者の氏名が論文に載ることはないが、自分が関わった研究が科学の発展と社会の役に立つのは何だか誇らしい。



㊤MRIの寝台の上に固定される記者　㊦実験前に趣旨の説明を受ける記者＝いずれも岡崎市明大寺町の生理学研究所で

10年越しの論文　海を渡る

一般市民が協力した実験の成果が、海外の専門誌に掲載されることも少なくない。

三月末まで生理研の助教だった三木研作さん(四三)＝日本赤十字豊田看護大教授＝は昨年、八～十三歳の子どもが他者の顔を認識する際、大人よりも目に強く反応する傾向があるとの研究成果を、スイスの神経科学誌に発表した。

脳波の測定実験は二〇〇五～〇六年、岡崎市内の小中学生百五十人が参加して実施。だがその後、他の研究に追われ、得られたデータは研究室の資料の中に埋もれていた。

やり残した課題と向き合うことに決めたのは一四年八月だ。研究所の実験参加者控室で「小学生の頃にも、ここで実験に参加したことがある」という女性と再会。二十歳になった姿を見て、焦りを覚えた。

実験データを分析し、まとめる作業に数カ月。十年越しの研究論文はようやく海を渡った。アジア圏からは初の成果だった。

生理学は、種としてのヒトや生命の謎の解明を目指す学問。生理研には最先端の超高圧電子顕微鏡やMRIがあり、脳の働きや体内の細胞、遺伝子の仕組みを知るため、人や動物の実験を行っている。

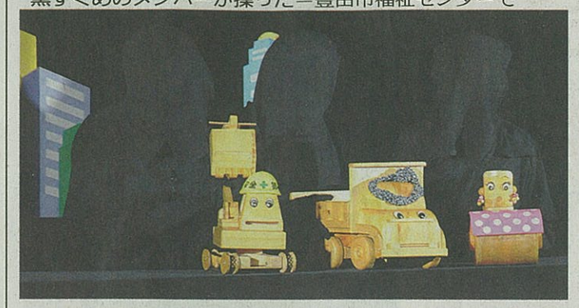
実験施設は全国の研究者に開放されている。国の予算で運営しているため、利用許可を得れば費用はかからない。実験には生理研内部や各大学の倫理委員会の承認が必要で、安全性や倫理上の問題がないか審査される。

一般市民を対象にした実験協力者（被験者）は随時、研究室単位で募集している。生理研のウェブサイトにある研究部門の紹介ページから各研究室のサイトで募集の有無を確認できる。㊐生理研＝0564(55)7722

告知板

◇モネ芸術講座　美術史家の森耕治京都嵯峨芸術大客員教授による講座「クロード・モネ　愛のセーヌ河紀行」が16日午後2時から、刈谷市相生町の刈谷プラザホテルである。

「睡蓮（すいれん）」などの代表作で知られる印象派の画家モネの作品と人生について、ベルギー王立美術館公認解説者も務める森さんが解説する。受講料は3000円。申し込みはホテル＝0566(24)3711＝へ。



豊田産材でできた重機のキャラクターが登場した人形劇。黒ずくめのメンバーが操った＝豊田市福祉センターで

人形劇親しまれ20周年

豊田の劇団　記念公演

豊田市の人形劇団「ぐるーぷびっくりー箱」の二十周年記念公演が九日、錦町の市福祉センターであった。メンバーの主婦たちが新作や過去の名作を披露し、大勢の家族連れを喜ばせた。

記念の新作劇には、豊田産材で作った重機のキャラクターたちが登場。音楽や歌に合わせて動き回ったり、セットが素早く切り替わったりし、子どもだけでなく大人からも歓声と笑い声が響いた。

メンバーの主婦八人が全身黒ずくめで演じる。毎年一本ずつ新作を発表し、こども園や公共施設を巡回しながら年間七十～八十回の公演を重ねてきた。観賞に訪れた人は通算十二万人以上に上り、多くの市民に親しまれた存在だ。代表の黒柳公子さん(六四)は「作品を披露するたびに子どもたちの笑い声をもらい、活動のエネルギーになってきた。好きなことを長く続けられるのは幸せです」と話す。

二十周年を記念し、過去の劇を絵本にした「みんなのもりのジュボックさん」も近く自費出版する。千円（税込み）。㊐事務局＝0565(80)5802

（河北彬光）

茶　南山園　製造元
安城店・アピタ安城店
西尾店・ジェルサウォーク

指定管理者制度　図書館導入問う

豊田で講演会

図書館に指定管理者制度を導入した場合の是非を考える講演会が九日、豊田市若宮町の市とよた市民活動センターであった。市が三月に方針を示した市中央図書館（西町）への制度導入を疑問視する市民が企画し、百人が聴講した。

講師は日本図書館協会の元事務局長、松岡要さん(六九)＝写真。この制度が二〇〇三年以来、全国四百七十館以上で導入され、一部で貸し出し図書が増えるなどの成果が出ていると述べた。

一方、利用無料の図書館では事業者が収益を得づらい点や、自治体との契約が三～五年程度のため長期的視野で司書を育成しづらい点、蔵書が人気のある本に偏りやすく、多様な資料を確保する図書館の本来的機能が失われがちな点を指摘。「（指定管理者制度は）図書館運営になじまない」と批判した。

主催者は、引き続き導入の是非を話し合う集会を開く。次回は十六日午前十時前から昭和町の崇化館交流館。

㊐篠田さん＝090(7953)9078

緊急医

10日【岡崎】内科または小児科・新海医院＝板屋町(21)0023、内科消化器科